

3 博物館の連携事例について

作成：令和2年12月23日

トータルメディア開発研究所

■学校との連携

- ①アウトリーチ…資料の貸し出しや学芸員の学校訪問など、博物館外で行う。
- ②博物館見学……学校の団体や教員が博物館へ来館し、展示を通して学んでもらう。
- ③共同企画展示…島根県立大学の文化系サークルや高校の歴史授業等と共同で企画展示を開催する。

①アウトリーチ

- ・学校貸し出しキット「きゅうぱっく」／九州国立博物館

博物館に関係のある資料を学校の授業のなかで活用してもらうためにトランクに詰めた15種類の教材。

手に取ることのできる実物資料、最新の技術を駆使して正確にかたちを再現したもの、音や匂いを体験できるものなど。

- ・出前体験授業／高知県立高知城歴史博物館

学芸員が各学校へ体験用の道具を学校へ持参し、間近で観察したり、触ったり、身につけたりするなどの体験を中心とした学習プログラム。スライドによる地域の歴史紹介（出前授業）等と組み合わせることも可能。

②博物館見学

・スクールプログラム／東京国立博物館

小学校・中学校・高等学校が学校の授業で博物館を見学するときに参加できるプログラム。ガイダンスを聞く、作品をじっくり見る、学芸員とギャラリートークをする、ワークショップを体験する、博物館の仕事について聞くなど、5種類15コースのプログラムから選択。

・教員のための博物館の日／三重県立総合博物館

博物館の活用方法を先生方にご紹介する日を年1回開催。学芸員による展示解説を聞き、ワークシートの活用や、化石レプリカ体験、バックヤードツアーなどを体験。また施設のユニバーサルデザインや学校向けプログラムを紹介。※もとは、博物館の学習資源を知ってもらうために国立科学博物館が実施。

③共同企画展示

・ここまでわかる考古学（2015年合同企画展）／京都市考古資料館

京都市内の大学の考古学専攻や歴史学コースの有志が集まって開催した合同企画展。ポスターや展示パネルのデザインは阪成蹊大学の芸術学部にも協力してもらうなど、歴史分野に限らず、学生の力を使って考古学の魅力を多角的に発信することを目的に開催された。

■美術館との連携

- ①美術視点の応用……………美術の視点で歴史資料の価値や魅力を見直す。
- ②美術館での歴史資料展示…美術館の中で歴史資料を美術品のように展示。
- ③美術館との共同イベント…美術館と共同してワークショップなどのイベントを開催。

①美術視点の応用

・アートと考古学（2016年）／京都文化博物館

京都造形芸術大学教授やアーティストと考古学者が連携し監修した企画展示。異なる視点から考古学を見つめ直すことで新たな価値観を生み出し、多くの人に歴史文化遺産の魅力を再発見してもらうことを目的に開催。

②美術館での歴史資料展示

・土偶・コスモス（2012年秋季特別展）／MIHO MUSEUM

国宝土偶「縄文のビーナス」を始め、国宝3点を含む縄文土偶約220点が日本全国から集められ展示。類似した種別の土偶をサンプルにまとめて展示し、最小限の解説としたことで、縄文文化の核心を来館者に伝えようとした。

③美術館との共同イベント

・琉球漆器 沈金を楽しもう／沖縄県立博物館・美術館

琉球漆器にある「沈金」の技法を、王朝時代から続く歴史や道具を学び、沈金技法を使ってオリジナルバッジをつくることで工芸士の生活を覗くアートワークショップ。地元の漆実験工房が講師となり、館内の実験室やアトリエで開催。

■市民との連携

- ①計画段階からの参画…計画や設計段階で地域住民との意見交換会や、ワークショップを行い、計画等に反映。博物館づくりの機運を地域全体でつくる。
- ②運営面での参画………NPO 法人等の市民団体と連携して博物館事業を地域全体で推進。
- ③開館後の企画展参画…企画展示室の市民ギャラリーとしての活用、企画展示室の貸し出し等を行い、市民にも利用してもらう。

①計画段階からの参画

- ・みんなでつくる博物館会議／三重県立博物館

新県立博物館の活動や運営に対する意見を県民よりいただき、博物館づくりに参画する場としてこども会議などの分科会と年1度に開催する本会議を開催。

- ・三重県立博物館サポートスタッフ（現：ミュージアム・パートナー）

小学生から80才代の方までの約300人が歴史や生き物など自分の興味関心に基づき、グループ活動や博物館事業へ参画。約8年間にわたり活動成果を蓄積し、博物館を活動の場とした取り組みの先駆けとなっている。

②運営面での参画

- ・NPO 萩まちじゅう博物館（山口県萩市のボランティア団体）

萩のまちを次の世代に引き継ぐため、活動事業部（外国語対応、語り部、緑地推進など）、管理運営活動事業部門（受付、ガイド、清掃、ショップ、レストランなど）、学芸員サポート活動事業部門（歴史や天文学、民具などの調査やワークショップ補助）などに分かれて博物館事業をサポート。

③開館後の企画展参画

- ・「呉のやぶ」面展（2020年街かど市民ギャラリー展）

呉市内の秋祭りに登場する「やぶ」と呼ばれる鬼の面、やぶ面を趣味でつくっている方々（普段は美容師や調理師、大工、会社員等）の作品を市民の手によって展示。作品を通して、呉のやぶのローカル性と多様性の魅力、呉には多くの彫り師がいることや、また彼らが「呉のやぶ」文化の一端を支えていることを伝えることを目的に開催。

■観光との連携

- ①地域の周遊を促す展示……………市内に点在する施設と連携した企画展示を行い、博物館を起点に市内の観光を促す。
- ②名産品とのコラボ展示……………名産品の歴史等を紹介し、市内散策を促す。
- ③地域施設との連携チケット…連携チケットにより周遊や購買を促す。

①地域の周遊を促す展示

- ・萩フィールドミュージアム

まちの中核施設である萩博物館を中心に、まち全体を屋根のない博物館と見立て、まち中の歴史や自然を“おたから”と捉え、保存・活用することで萩市のまちづくりや観光地づくりを推進している。推進にはNPO萩まちじゅう博物館など市民が広くかかわっている。

・ウォーキングミュージアム／石見銀山資料館ほか

町並み全体を一つのミュージアムに見立てて、作品や文化財を観て歩けるイベント。石見銀山資料館や重要文化財住宅や古民家風ギャラリー、古民家風ショップなど町内6軒のメイン会場で町内の観光めぐりを兼ねた企画を開催。

②名産品とのコラボ

浜田市の海産物や石州半紙、石見神楽の歴史や技術などの魅力を展示の中で紹介。展示室を起点に市内の各観光地（例えば、かつて北前船の寄港地であった外ノ浦（またそれを一望できる浜田城跡）、石州和紙会館、石見神楽の公演イベント地など）へと赴いてもらうきっかけをつくる。

③地域施設との連携チケット

浜田市内の浜田城資料館や金城歴史民俗資料館などとの連携チケットにより周遊や購買をしやすい仕組みを構築。